

## 【正論】教育現場のデジタル偏重の危険 大阪大学名誉教授・猪木武徳

2024/04/12 産経新聞 東京朝刊 9 ページ 1946 文字

《急速な普及と落とし穴》

われわれはつねに便利さを追求し、少ない労苦と時間で多くの果実を得ようとする。単調な反復作業であれば機械に任せ、それで得た時間を別のやりがいのある活動に振り向けようとするのは、確かにひとつの知恵といえよう。

便利なデジタル技術が教育の現場に普及し始めたのは最近のことではない。しかし近年、より広く、そして急速に進行し出した。

小学校教育でも情報機器の使い方、安全やモラルに関する教育が必要になった。中等教育では、「デジタル人材」の育成強化を図るために「DXハイスクール」を全国で公立・私立合わせ1000校ほど指定するプロジェクトが始まっている。急速な人口減少が進む中で、文部科学省が教育体制見直しの一環として打ち出した。

教育には社会の変化に順応すべき要素が必要なことは言うまでもない。しかし順応の姿勢だけに終始することは避けねばならない。便利さを求めることには常に落とし穴があるからだ。

知識・情報に関する利便性では、生の1次情報ではなく型式化されたもの、編集されたものをすぐ入手できるか否かが価値判別の基準となる。すぐに分かることが重要で、分からないことは価値を持たないとして軽視される。

《「即答智恵」ばかり誇る愚》

この点について、江戸後期の経世家、海保青陵が『稽古談』で面白い指摘をしている。

金融業を営む大阪の銀主（ぎんしゅ）に金を借りに来る財政難の藩大名や大夫に共通する特徴は「即答智恵」だという。問いに対して「それはこうだ」とすぐ答える武士ばかりだという。

即答智恵を誇る役人は、「自分は知恵ある武士、銀主は愚かな民」と思い込んでいる。こうした輩（やから）は、銀主に金を出させることなどいとも簡単と思い込み、銀主相手に喋（しゃべ）りまくる。

武士は文武の学問を修めて即答智恵でいっぱいだが、金貸しに関しては銀主のほうは百戦錬磨、武士の口車に乗って損をすることはない。即答智恵の武士と銀主とのやり取りを青陵は、何も知らぬ人が、底の底まで見抜いて知っている人と「知愚くらべ」をしているようなものだと言っている。

青陵の指摘を読むと、大量の知識や情報過多になりがちなわれわれは、即答智恵ばかりを求めていることに気付く。スマートフォンを取りだせば、求める知識も一瞬にして得られるのだ。

こうした状況の下で、デジタル機器の使用はわれわれの精神にどのような変化をもたらしているのか。ソーシャルメディアが、メンタルヘルスや学業にいかなる影響を及ぼしているのかを知ることは重要課題であろう。

この点についての専門的研究は、大量のデータを駆使した分析が海外で数多く公表されている。経済学の学術誌で読んだ研究例を簡単に紹介しておこう。

米国やイタリアの共同研究は、世界人口の半数以上がアカウントを持つといわれるフェイスブックが普及する過程で、学生のメンタルヘルスや学業成績にいかなる変化が起きたのかを検証している。

フェイスブックは2004年にハーバード大学生が開発し、米国や世界の大学に徐々に広まっていった。

データとして、米国の775大学の学生の精神的・肉体的健康についての経年の調査情報も用いられる。43万以上というサンプル数の多さ、調査項目がアルコール、薬物、性行動、メンタルな病の症状など、匿名化されてはいるが多岐にわたっているのには驚く。プライバシー問題に敏感なわが国ではとても収集できないようなデータが併用されているのだ。

#### 《負の影響についても認識を》

大量のデータに精緻な統計処理を施した結果、いかなる結論が得られたのか。いくつかの暫定的な結論に注目したい。ひとつは、望む場所で、望む時間に個人的・社会的情報を迅速かつ映像とともに容易に入手できる状況は、自己を社会的な「平均」や「多数」との比較に容易に走らせる。

加工された情報が人々を社会的に同質化させる方向へ傾かせるのだ。こうしたソーシャルメディアをベースとする自己評価は、若者への精神的プレッシャーを強め、メンタルヘル

スに関して負荷（うつ病など）をかける可能性を生む。

この負の影響が、集中力を阻害し、すぐに答えの得られない問題に向き合う力を弱め、学業成績も悪化させると推測できる。因果関係を検出するためには、もちろん精神医学をはじめ他分野の知見が必要になろう。

技術は使い方次第であって、技術自体は価値中立的であるはずだ。従って便利なデジタル技術も、その利便性だけに注目して称賛すべきではなかろう。特に教育の現場では、メンタルな健康面への十分な配慮が不可欠だ。新しい産業社会はデジタル技術に長（た）けた人材を必要としている。しかし国民全体が「デジタル人材」となる必要はないのだ。（いのき たけのり）